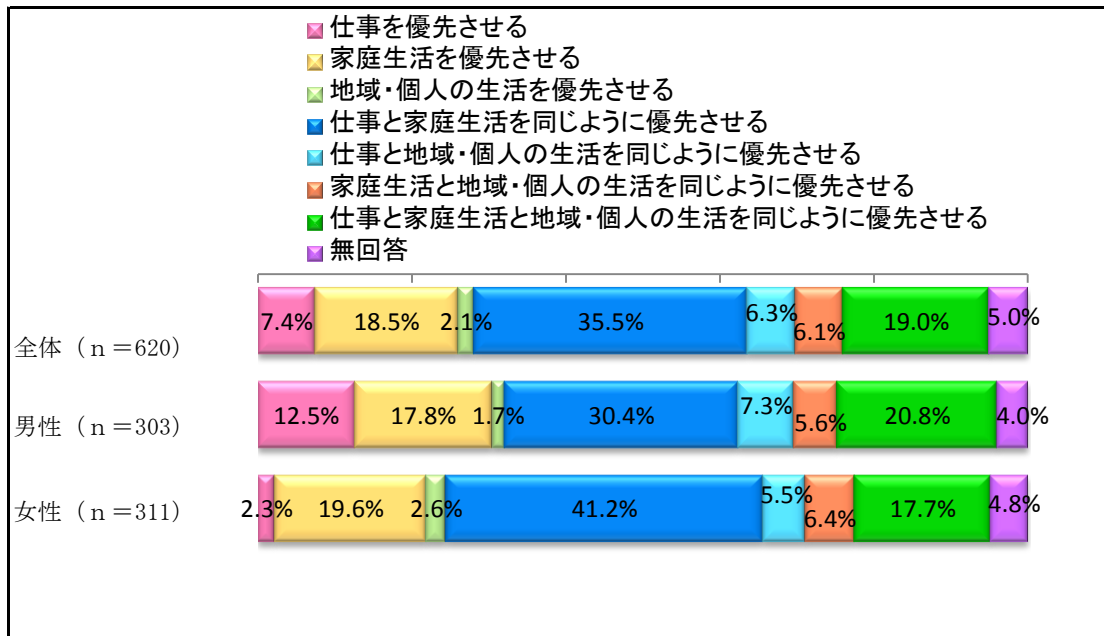


問6 仕事、家庭生活、地域、個人の生活の優先について(希望)

全体では、「仕事と家庭生活を同じように優先させる」が35.5%と最も多く、次に「仕事と家庭生活と地域・個人の生活を同じように優先させる」が19.0%「家庭生活を優先させる」が18.5%となっており、あくまで家庭や仕事・地域など両立することを望んでいることが感じられる。

男女別にみても、家庭と仕事の両立させる意識が高い。



問7 仕事、家庭生活、地域、個人の生活の優先について(現実)

全体で「家庭生活を優先させる」、「仕事と家庭生活を同じように優先させる」の割合を合わせて比べると、希望(54.0%)と現実(50.2%)ではほぼ同じように感じる。しかし、「仕事を優先させる」だけを比べてみると希望が7.4%に対して、現実には13.1ポイント高い20.5%となっている。また、性別でも、男性は希望12.5%に対し2倍以上の28.7%、女性も2.3%に対し12.5%と希望と現実の差が見られる。また、男女ともに希望としては「仕事と家庭生活の両立」に対して現実には「家庭生活」または「仕事」のどちらかに偏っていることがわかる。

